

## 2020 年度第 8 回価格審査会の開催について

2020 年度第 8 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2020 年 11 月 13 日(金)～17 日(火)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2020 年度第 7 回価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 8 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号の価格動向	
・価格が上伸した資材	
<b>【Web 建設物価】</b>	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼(全都市)、異形棒鋼及びねじ節鉄筋(近畿、四国の各都市)、鋼板(関東、近畿、中国、四国、沖縄の各都市)、ステンレス鋼(全都市)、レディーミクストコンクリート(中之条、長野原、松戸、柏、糸魚川、美濃加茂、庄原、直方、飯塚、薩摩川内)、コンクリート用骨材(那須塩原、糸魚川、大野)、道路用砕石類(糸魚川、大野、岡山、倉敷A、倉敷B、津山、総社、新見、美作、人吉、五木村)、推進工法用埋込カラー形Wジョイント管(東京)、埋込カラー形小口径推進管(東京)、下水道推進工法用管(東京)、可とう性ヒューム管(東京)、遠心力鉄筋コンクリート管(関東の各都市)、張りブロック(大津京都、福知山、大阪、奈良、和歌山)、芝(岡山、広島)、建築用石材(東京)、合成樹脂板(全都市)、トッランナー変圧器(全都市)、変圧器(全都市)、水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(全都市)、水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管(全都市)、鉄スクラップ(北海道、東北、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の全都市)など	

- ・価格が下落した資材（工事費）
- 【Web 建設物価】
- 再生砕石類(新潟)、燃料油(全都市)など

## 2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	電車線架線金具は「JR用」との注釈付きであるが、製造可能メーカーはかなり限られた数の企業なのか。(=製造可能メーカー数は何社ぐらいか) また、「JR用」ということで、この製品の取引市場(=需給)関係者は、他の汎用品と比べると、限定された少ない範囲内の商いなのか。	主要なメーカーは7社。また、主な需要家は鉄道電気設備工事業者となり、比較的限定された流通と言える。
質問 2	コンクリート型枠用合板で、「需要家の一部に手当を優先する動きも出始めている」とあるが、具体的にどのような動きを指すのか。	輸入量が過去にない低水準で推移し、需給にタイト感が強まっているため、欠品を恐れた一部の業者が値上げを受け入れて製品の入手を優先させた。
質問 3	再生アスファルト混合物で、「メーカー各社は・・・ストア価格上昇による採算悪化を理由に・・・」とあるが、原油価格が10月末以降下落傾向にあるので、間もなくストア価格は下落に転ずるとは言えないのか。また、コメントには「今後、ストア供給量減少に伴う調達コスト増」ともあるが、これは、今後は原油生産量の減少が進み石油関連製品コストは増加するという判断なのか。	原油価格は足元で小幅下落しているが、元売り各社は仕切り価格を変えておらず、ストア価格は11月号で上昇した後、横ばいで推移している。先行きも横ばいの見通しである。現在、新型コロナの影響に伴う燃料油需要の減少で元売り各社は原油精製量を減らしており、ストア供給量も減少している。輸入品も、堅調な需要を背景に高値で取引される中国へ流れ、国内流通量は減少。こうしたことから、需給引き締めによるストア価格の上昇を予想する向きもある。
質問 4	合成床工法用プレキャストコンクリート板【公表価格】の大幅な価格改定の理由は何か。	【公表価格】帯では、実勢価格の継続的な把握が困難な資材について、メーカー等が発表する価格をそのまま掲載している。大幅な価格改定の理由は、メーカーの製造コスト見直しである。
質問 5	水中タービンポンプ【公表価格】の大幅な価格改定の理由は何か。	回答4と同じ。
質問 6	特殊舗装工事（本工事）【公表価格】の大幅な価格改定の理由は何か。	回答4と同じ。

質問7	コンクリート型枠用合板の入荷量大幅減少により、需給ひっ迫感が懸念されるなかでも、入荷量が回復しないのはなぜか。	国内需要の回復が不透明であることに加え、産地が値上げの意向を強めているため、商社は買い付けに慎重な姿勢で臨んでいる。また、現地工場は値上げが進まない日本向けの出荷よりも他の供給先を優先する傾向にあるため。
質問8	再生砕石が全国的に横ばいの中、新潟地区のみ価格競争が激化して下落しているが、地域特有の理由があるのか。	新潟地区では、再生砕石の需要が低迷するなか、マンション解体工事などが比較的堅調でコンクリート廃材の発生量が増加した。市中の廃材在庫量が過剰となり、メーカー各社による在庫調整などを目的とした安値販売が増えたため下落した。
質問9	補強土壁（鋼製）一ブランド品一などの「ブランド品」の意味するところは何か。また、価格変動率が69.6～70.2と非常に高い背景・理由は何か。	一般名称ではなく、メーカー独自の名称で商品を掲載する場合、帯名に一ブランド品一と表記している。大幅に変動した理由は、メーカーが製造コストを踏まえ価格体系を見直し、特に採算が低かった規格で大幅な値上げとなった。
質問10	H形鋼の東京地区で、「目先、強含みで推移する」との見込みであるが、実際都心部は再開発による高層ビルや大型物流施設建築等で比較的堅調に推移すると思われる。一方で、コロナウイルス禍を受けて中小規模のビルやホテル建築工事計画が見直される事例が出てきているため、見通しは厳しいように思えるが、中長期的には1年前位の水準まで戻る可能性はあるのか。	H形鋼の需要見通しは厳しいが、原料価格の上昇傾向が続くとの見方も強く、メーカーの販売姿勢は強い。中長期的な価格動向の予想は難しいが、目先は、強含みで推移する公算が大きい。
質問11	生コンを地区別にみると、札幌地区以外は価格変動があるが、札幌地区は、2018年1月以降、12,950円/m <sup>3</sup> と一定で価格変動がない理由は何か。また、この価格になったのはいつ頃からか。	札幌地区は、協組が高い組織率を背景に価格維持に努めており、2016年8月号で800円上伸した以降、現在まで横ばいとなっている。
審議結果	「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号、の価格動向に問題はなかった。	

以上